

連携先世界遺産：清水寺

本科目が取り組んだ課題・改善事項

京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み

座学・フィールドワークを通して、文化財の価値の重要性を学び、守るために、地域の災害危険性について考え、具体的な検討を行う。

■受講生

安達 直登(立命館大学・理工学部・1回生)、石渡 早希(同志社大学・文学部・3回生)、上田 涼斗(立命館大学・スポーツ健康科学部・2回生)、WANG Jing(立命館大学・情報理工学部・1回生)、大久保 瞭(立命館大学・理工学部・2回生)、大西 慎一郎(京都学園大学・経済学部・4回生)、栗棟 領一(立命館大学・理工学部・2回生)、児玉 邦宏(立命館大学・産業社会学部・2回生)、小林 千鶴(立命館大学・国際関係学部・4回生)、小山 陽裕(立命館大学・生命科学部・4回生)、左口 晶(立命館大学・法学部・4回生)、佐合 智之(同志社大学・法学部・4回生)、篠田 菜々子(同志社女子大学・生活科学部・2回生)、島田 楓夕(立命館大学・理工学部・2回生)、高橋 悠大(立命館大学・文学部・7回生)、徳水 皓基(立命館大学・経営学部・4回生)、中路 鈴佳(京都女子大学・現代社会学部・3回生)、長瀬 ひなの(立命館大学・経済学部・4回生)、中野 希実(立命館大学・政策科学部・3回生)、能勢 真由美(京都産業大学・経営学部・4回生)、福島 吉人(立命館大学・映像学部・3回生)、房本 泰介(京都産業大学・経営学部・4回生)、松本 光(京都産業大学・経営学部・4回生)

■担当教員

大窪健之(立命館大学・理工学部・教授)

活動目的・概要

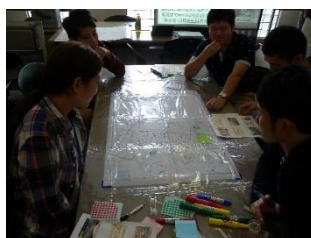
世界文化遺産である清水寺は、年間400万人を超える参拝者があり、日本を代表する寺院である。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備について、座学とフィールドワークで学ぶ。清水寺では文化財等を維持管理し、火災等の災害から守ることを主な目的として「清水寺警備団」が結成され、現在に至っている。また、地震による大火から守るために、京都市が平成18年度から国宝や重要文化財が集積する東山区清水・弥栄地域において、地域力を最大限に発揮して防災力を強化する「文化財と地域を守る防災水利整備事業」を展開している。フィールドワークでは、清水寺の文化財の価値について僧侶から説明を受け、実際に見学を行う。また、門前町の清水寺警備団の方から活動内容や成功の秘訣、現在の課題についてヒアリングを行い、「地域ぐるみ」の取り組みの経緯についても学ぶ。最後に「災害図上訓練D I G」を行い、地域の災害脆弱性と対策について考察し、発表する。



保存修理の見学



設備見学・実技体験



災害図上訓練



成果発表

◆主な活動

- | | |
|--|---|
| 2017.9.7 清水寺 ご挨拶 | 2017.9.8 清水寺周辺地域の防災水利整備事業 |
| 2017.9.7 講義ガイダンス+歴防研究所の活動紹介 | 2017.9.9 フィールドワーク 1 *各地において事業の説明
(市民利用消火栓、高台寺防災公園、etc) |
| 2017.9.7 清水寺とその歴史について | 2017.9.9 フィールドワーク 2 *グループ毎に現地調査
(地域の災害危険性、防災資源、etc) |
| 2017.9.7 清水寺と地域の防災活動に向けた取り組み | 2017.9.9 災害図上訓練 1 (総論・ワークショップ解説) |
| 2017.9.7 清水寺内の文化財建造物の保存修理について | 2017.9.9 災害図上訓練 2 (実技・ワークショップ実施) |
| 2017.9.7 境内見学 (修復現場の見学) | 2017.9.10 災害図上訓練 3 (発表+総括・講評) |
| 2017.9.8 清水寺とその災害について 1
(災害史を古文書から読み解く) | 2017.9.10 生徒同士の意見交換会 |
| 2017.9.8 清水寺とその災害について 2
(近年の災害とその対策：地震・土砂・火災) | 2015.11.11 成果発表の準備 |
| 2017.9.8 設備見学および実技体験
(防火水槽、ドレンチャー、放水銃等) | 2015.12.10 成果物発表 |

活動の成果

本講義を通して、受講生が明らかにした「本地域における防災上の課題」

本講義の座学・フィールドワークを通して、各班から【表1】の様な多くの問題点が挙げられた。その中でも特に「地震による建物の倒壊」「倒壊後の火災・延焼」が、より発生しやすく、重大な問題であることが認識された。そして、これを基に災害図上訓練(DIG)を行った結果、初期対応を行うためにも、観光客の円滑な避難を実現させるためにも、「災害(火災)発生箇所の把握」を、どのように行うかが課題点として新たに挙げられた。このように、受講生自身が文化財や地域を守るために、地域の災害危険性について、調査・考察を行い、新たな問題点も明らかにしていることが見受けられた。

－ 座学・フィールドワークから認識された本地域における防災上の課題 － 【表1】

- 1班：飲食店からの火災・延焼、木造建造物が多く立地、消火用水の不足、市民消火栓の位置が不明確
- 2班：様々な状況での同時避難が困難、災害時要援護者の避難が困難
- 3班：夜間は暗く、人がいないこと、避難誘導時の英語対応、避難場所への目印の有無



－ 災害図上訓練(DIG)により新たに明らかになった防災上の課題 －

- 災害(火災)発生箇所の把握

本講義を通して、受講生が提案した「防災上の課題に対する対策」

本講義の意見交換会を通して、初めに明らかになった「地震火災」の対策として、断水時にも利用ができ、一般人も利用可能な「市民消火栓」による初期消火の必要性が意見として挙げられた。しかし、本地域では、景観に配慮しており、消火栓の位置が不明確であるため、市民消火栓の認知方法として「スタンプラリー」が提案された。また、避難誘導では、門前町のお店に非常時用の看板を用意しておくことが提案された。その後に提案された「災害(火災)発生箇所の把握」に対しては、防災活動に日常的に関わるのが少ない住民が、意識付けも含めて、当番制で災害発生箇所の連絡を行う係としての役割を担うことが提案された。その他の事例としては、災害時要援護者の避難誘導の対策として、人力車の方の協力、修学旅行生のしおりや清水寺の拝観券への避難情報の記載など、既存のヒト、モノを活用する方法が提案された。これらの事から、幅広い視点から現状を把握し、災害対策のあり方についての具体的な検討を行うことができる能力が身に付いたと考えられ、本講義の目的を果たしたものと思われる。



▲景観に配慮された消火栓



▲危険箇所をプロットした地図(災害図上訓練より)



▲提案された避難ルート

活動を振り返って

- 防災と一口にいても、様々な状況が想定されるのでそれぞれの状況に応じて異なる防災の方法を考えたこと。が難しかったです。
- 最も困難だったことは、観光地の景観に配慮し、景観に溶け込んでいる防災関連の設備をフィールドワークの際に見つけることでした。
- 防災というのは様々な状況が想定されるので、それぞれの状況に応じた防災の方法を考えなければならぬことを学びました。
- 清水寺の住職の方だけでなく、清水寺の門前の住民の方々も防災についての取り組みをされていることを知りました。
- 観光地や文化財を守ることを考える際に、単純な景観保全や保護の話だけではなく、防災という視点がとても重要となるということを感じました。
- 開講期間が短期集中ということで1回1回の内容が濃く、その期間は清水と防災のことしか考えられなくなりましたが、良い勉強の癖がつけられました。
- 理工学部の科目でしたが他学部の人でも親しめるような授業内容になっていました。

担当教員からのコメント

大窪 健之

この演習は夏季集中講義としては4年目なのですが、今期から世界遺産PBL科目に正式に加えていただきましたので、これまで無かった合同発表会への参加というミッションに取り組むことになりました。このため、従来は各班ごとに演習の成果を相互発表しあう形式だったのが、今回は初めて各班の成果を一つのパワーポイントにまとめるという課題に取り組みました。結果的に、全体の工程を圧縮して各班の成果をパワーポイントで作成・発表してもらい、さらにこれらを一つの成果に集約するという突貫工事になったのですが、これをきっかけに参加者全員で班の垣根を超えた活発な意見交換ができ、例年よりも強い一体感と達成感が得られたように思います。次年度に向けて、各班で課題を絞ったテーマ設定をして災害対策のアイデアをより深いものにするなど、あたらしい取り組み方法にもチャレンジできればと思っています。

活動資料



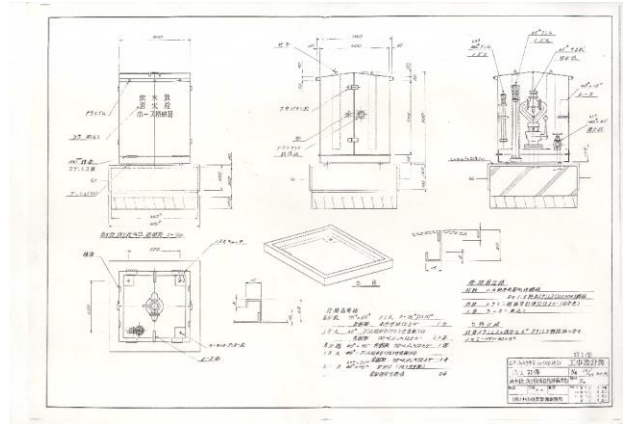
▲僧侶からの貴重なお話を直に聞き、文化遺産の価値と重要性を学んだ。



▲消防設備見学・実技体験



▲保存修理の見学により、文化遺産を次世代へ繋げる技術を学んだ。



▲消防設備の図面



▲災害図上訓練時により、地域の災害危険性を明らかにした。



▲最終日の茶話会後の集合写真